

## A.2 追加性に関する情報

投資回収年

投資回収年数	5.7	年
--------	-----	---

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
$ER$	排出削減量	tCO2/年	127
$EM_{BL}$	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	342.0
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	214.2

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。  
 ※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。  
 ※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う
		<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。  
 ※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

##### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的な排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的な排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。  
 ※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。  
 ※3 方法論で規定された方法から選択すること。  
 ※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1 プロジェクト実施後のファンにおける電力使用量からCO2排出量を算定する。

$$EM_{PJ} = EL_{PJ} \times CEF_{electricity,t} \quad (式)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	214.2
$EL_{PJ}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類における電力使用量	kWh/年	386,666.5
$CEF_{electricity,t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000554

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本方法論におけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の可変能力制御の導入を行ったポンプ・ファン類ではなく、ベースラインのポンプ・ファン類を、プロジェクト実施後と同じ時間稼働する場合に想定されるCO2排出量とする。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$T_{BL} = T_{PJ} \quad (式)$$

記号	定義	単位	想定値
$T_{BL-8IDF1}$	ベースラインのポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉誘引ファン1)	h/年	2,616
$T_{BL-8IDF2}$	ベースラインのポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉誘引ファン2)	h/年	2,616
$T_{BL-8FDF}$	ベースラインのポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉燃焼ファン)	h/年	2,616
$T_{PJ-8IDF1}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉誘引ファン1)	h/年	2,616
$T_{PJ-8IDF2}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉誘引ファン2)	h/年	2,616
$T_{PJ-8FDF}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉燃焼ファン)	h/年	2,616

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = EM_{BL-8IDF1} + EM_{BL-8IDF2} + EM_{BL-8FDF} \quad (式)$$

$$EM_{BL-8IDF1} = T_{BL-8IDF1} \times BU_{BL-8IDF1} \times CEF_{electricity,t} \quad (式)$$

$$EM_{BL-8IDF2} = T_{BL-8IDF2} \times BU_{BL-8IDF2} \times CEF_{electricity,t} \quad (式)$$

$$EM_{BL-8FDF} = T_{BL-8FDF} \times BU_{BL-8FDF} \times CEF_{electricity,t} \quad (式)$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL}$	ベースライン排出量	tCO2/年	342.0
$EM_{BL-8IDF1}$	ベースライン排出量 (8号炉誘引ファン1)	tCO2/年	127.5
$EM_{BL-8IDF2}$	ベースライン排出量 (8号炉誘引ファン2)	tCO2/年	127.5
$EM_{BL-8FDF}$	ベースライン排出量 (8号炉燃焼ファン)	tCO2/年	87.0
$T_{BL-8IDF1}$	ベースラインのポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉誘引ファン1)	h/年	2,616
$T_{BL-8IDF2}$	ベースラインのポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉誘引ファン2)	h/年	2,616
$T_{BL-8FDF}$	ベースラインのポンプ・ファン類の稼働時間 (8号炉燃焼ファン)	h/年	2,616
$BU_{BL-8IDF1}$	ベースラインのポンプ・ファン類の電力使用原単位 (8号炉誘引ファン1)	kW	88.0
$BU_{BL-8IDF2}$	ベースラインのポンプ・ファン類の電力使用原単位 (8号炉誘引ファン2)	kW	88.0
$BU_{BL-8FDF}$	ベースラインのポンプ・ファン類の電力使用原単位 (8号炉燃焼ファン)	kW	60.0
$CEFelectricity,t$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000554

当該ポンプはON/OFF操作のみで24時間稼働しており、多段階調整は行われていない。よって定格容量より電力使用原単位を算定する。

$$BU_{BL-8IDF1} = SPC_{BL-8IDF1} \times 0.8 \quad (式)$$

$$BU_{BL-8IDF2} = SPC_{BL-8IDF2} \times 0.8 \quad (式)$$

$$BU_{BL-8FDF} = SPC_{BL-8FDF} \times 0.8 \quad (式)$$

記号	定義	単位	想定値
$BU_{BL-8IDF1}$	ベースラインのポンプ・ファン類の電力使用原単位 (8号炉誘引ファン1)	kW	88.0
$BU_{BL-8IDF2}$	ベースラインのポンプ・ファン類の電力使用原単位 (8号炉誘引ファン2)	kW	88.0
$BU_{BL-8FDF}$	ベースラインのポンプ・ファン類の電力使用原単位 (8号炉燃焼ファン)	kW	60.0
$SPC_{BL-8IDF1}$	ベースラインのポンプ・ファン類の定格消費電力量 (8号炉誘引ファン1)	kW	110.0
$SPC_{BL-8IDF2}$	ベースラインのポンプ・ファン類の定格消費電力量 (8号炉誘引ファン2)	kW	110.0
$SPC_{BL-8FDF}$	ベースラインのポンプ・ファン類の定格消費電力量 (8号炉燃焼ファン)	kW	75.0

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

## A.4.1 モニタリング計画

### (1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
$T_{PJ-SIDF1}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間（8号炉誘引ファン1）	h/年	C	稼働時間（12時間/日）と停止にかかる各1時間を差引き12時間/日とする。異常停止等があれば「8号ファン稼働時間記録」をもとに停止時間を控除	対象期間で累計	2,616	実施前稼働日（218日：H27.10から28.9）×稼働時間（12時間/日：投入14時間から立ち上げ、停止を各1差引）	
$T_{PJ-SIDF2}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間（8号炉誘引ファン2）	h/年	C	稼働時間（12時間/日）と停止にかかる各1時間を差引き12時間/日とする。異常停止等があれば「8号ファン稼働時間記録」をもとに停止時間を控除	対象期間で累計	2,616	実施前稼働日（218日：H27.10から28.9）×稼働時間（12時間/日：投入14時間から立ち上げ、停止を各1差引）	
$T_{PJ-SDF}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間（8号炉燃焼ファン）	h/年	C	稼働時間（12時間/日）と停止にかかる各1時間を差引き12時間/日とする。異常停止等があれば「8号ファン稼働時間記録」をもとに停止時間を控除	対象期間で累計	2,616	実施前稼働日（218日：H27.10から28.9）×稼働時間（12時間/日：投入14時間から立ち上げ、停止を各1差引）	
$EL_{PJ-SIDF1}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類における電力使用量（8号炉誘引ファン1）	kWh/年	C	消費電力量を操作用タッチパネルからUSBで抽出しデータ化して保管。抽出された電力量に補正率を加味して消費電力量を算出する。	対象期間で累計	173,339	プロジェクト開始後の実績（平成28年12月26日0:00から12月29日23:59）の実績より推計	
$EL_{PJ-SIDF2}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類における電力使用量（8号炉誘引ファン2）	kWh/年	C	消費電力量を操作用タッチパネルからUSBで抽出しデータ化して保管。抽出された電力量に補正率を加味して消費電力量を算出する。	対象期間で累計	147,256	プロジェクト開始後の実績（平成28年12月26日0:00から12月29日23:59）の実績より推計	
$EL_{PJ-SDF}$	プロジェクト実施後のポンプ・ファン類における電力使用量（8号炉燃焼ファン）	kWh/年	C	消費電力量を操作用タッチパネルからUSBで抽出しデータ化して保管。抽出された電力量に補正率を加味して消費電力量を算出する。	対象期間で累計	66,072	プロジェクト開始後の実績（平成28年12月26日0:00から12月29日23:59）の実績より推計	
$T_{Before-SIDF1}$	プロジェクト実施前のポンプ・ファン類の稼働時間（8号炉誘引ファン1）	h/年	C	稼働時間（12時間/日）と停止にかかる各1時間を差引き12時間/日とする。異常停止等があれば「8号ファン稼働時間記録」をもとに停止時間を控除	プロジェクト開始直近の1年間の実績を累計	2,616	実施前稼働日（218日：H27.10から28.9）×稼働時間（12時間/日：投入14時間から立ち上げ、停止を各1差引）	
$T_{Before-SIDF2}$	プロジェクト実施前のポンプ・ファン類の稼働時間（8号炉誘引ファン2）	h/年	C	稼働時間（12時間/日）と停止にかかる各1時間を差引き12時間/日とする。異常停止等があれば「8号ファン稼働時間記録」をもとに停止時間を控除	プロジェクト開始直近の1年間の実績を累計	2,616	実施前稼働日（218日：H27.10から28.9）×稼働時間（12時間/日：投入14時間から立ち上げ、停止を各1差引）	
$T_{Before-SDF}$	プロジェクト実施前のポンプ・ファン類の稼働時間（8号炉燃焼ファン）	h/年	C	稼働時間（12時間/日）と停止にかかる各1時間を差引き12時間/日とする。異常停止等があれば「8号ファン稼働時間記録」をもとに停止時間を控除	プロジェクト開始直近の1年間の実績を累計	2,616	実施前稼働日（218日：H27.10から28.9）×稼働時間（12時間/日：投入14時間から立ち上げ、停止を各1差引）	
$EL_{Before-SIDF1}$	プロジェクト実施前のポンプ・ファン類における電力使用量（8号炉誘引ファン1）	kWh/年	C	多段階調整していない為、設備の定格容量×0.8×稼働時間で算定する	プロジェクト開始直近の1年間の実績を累計	230,208	設備の定格容量、平成27年10月～28年9月の稼働時間実績より推計	
$EL_{Before-SIDF2}$	プロジェクト実施前のポンプ・ファン類における電力使用量（8号炉誘引ファン2）	kWh/年	C	多段階調整していない為、設備の定格容量×0.8×稼働時間で算定する	プロジェクト開始直近の1年間の実績を累計	230,208	設備の定格容量、平成27年10月～28年9月の稼働時間実績より推計	
$EL_{Before-SDF}$	プロジェクト実施前のポンプ・ファン類における電力使用量（8号炉燃焼ファン）	kWh/年	C	多段階調整していない為、設備の定格容量×0.8×稼働時間で算定する	プロジェクト開始直近の1年間の実績を累計	156,960	設備の定格容量、平成27年10月～28年9月の稼働時間実績より推計	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

(2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
<i>SPC<sub>BL-8IDF1</sub></i>	ベースラインのポンプ・ファン類の 定格消費電力量（8号炉誘引ファン 1）	kW	II	カタログ値を使用	—	110.0	カタログ値	1台稼働
<i>SPC<sub>BL-8IDF2</sub></i>	ベースラインのポンプ・ファン類の 定格消費電力量（8号炉誘引ファン 2）	kW	II	カタログ値を使用	—	110.0	カタログ値	1台稼働
<i>SPC<sub>BL-8IDF</sub></i>	ベースラインのポンプ・ファン類の 定格消費電力量（8号炉燃焼ファ ン）	kW	II	カタログ値を使用	—	75.0	カタログ値	1台稼働
<i>CE<sub>Electricity,t</sub></i>	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	III	デフォルト値を使用	検証申請時に最新の ものを使用	0.000554	デフォルト値	平成26年 度 全電源

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類I・II・IIIのいずれかの方法を選択すること。  
 分類I（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類II（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

## A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

### （1）計量器の概要

#### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

#### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

### （2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--

### A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1（1）においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間 ②プロジェクト実施後のポンプ・ファン類における電力使用量
(推定・概算方法)	
①プロジェクト実施後のポンプ・ファン類の稼働時間  投入時間である月曜から土曜の午前10時から0時の14時間から、  立ち上げ、停止の各1時間を差し引き、午前11時から23時の12時間とする。  上記のうち異常時等で消費電力0の時間帯は、さらに差し引く。	
②プロジェクト実施後のポンプ・ファン類における電力使用量  インバーター電力モニター（三菱電機製多回路電力計測ユニット）により把握  推定誤差0.5%を考慮  $\text{電力量} = \text{計測値} \times (100 + 0.5) / 100$	
(モニタリングポイント)	
既設の操作用タッチパネルを改造して設置。	

### A. 4.4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4.1において分類Iに該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分(分類A～分類C)に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	





## A.2 追加性に関する情報

投資回収年

③投資回収年数(=①÷②)	3.7 年
---------------	-------

### A.3 排出削減量の算定方法

#### A.3.1 排出削減量

$$ER = EM_{BL} - EM_{PJ} \quad (\text{式1})$$

記号	定義	単位	数値 ※3
$ER$	排出削減量	tCO2/年	397.0
$EM_{BL}$	ベースライン排出量 ※1	tCO2/年	397.0
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後排出量 ※2	tCO2/年	0.0

※1 A.3.5のベースライン排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※2 A.3.3のプロジェクト実施後排出量で算定した全ての排出量の総和を記載すること。

※3 A.3.2～A.3.5まで入力後、自動計算されます。

#### A.3.2 排出削減量の算定で考慮する付随的な排出活動

##### (1) ベースラインの付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。付随的な排出活動について、算定を行う場合には、A.3.5に算定方法を示すこと。

(考え方) ※1 本プロジェクトで適用する方法論では、ベースラインの付随的な排出活動は規定されていないため、付随的な排出活動は評価しない。

排出活動	排出量(tCO2/年)	モニタリング・算定方法
-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う <input type="checkbox"/> 排出量の算定を行わない
合計 ※2	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

##### (2) プロジェクト実施後の付随的な排出活動

注) 方法論の<排出削減量の算定で考慮すべき温室効果ガス排出活動>に規定される全ての付随的な排出活動について記載すること。

また、A.3.1で算定した排出削減量と比較して付随的排出活動の影響度を評価し、プロジェクト実施後の付随的排出活動のモニタリング・算定方法を決めること。ただし、モニタリングを省略する複数の付随的な排出活動の影響度の合計を5%以上としてはならない(影響度の合計が5%未満となるようにモニタリングを省略する付随的な排出活動を調整しなければならない)。

(考え方) ※1 熱搬送設備の使用、廃熱の昇温又は昇圧等の設備やプロセスはないため、該当する排出活動は存在しない

排出活動	排出量(tCO2/年)	影響度(%) ※2	モニタリング・算定方法 ※3
熱搬送設備の使用	-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
廃熱の昇温又は昇圧	-	-	<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を行う。ただし、排出量のモニタリングを省略し、影響度により排出量を評価する。
			<input type="checkbox"/> 排出量の算定を省略する。
合計 ※4	0.0	0.0	

※1 付随的な排出活動の考え方について記載例を参考に記入すること。

※2 A.3.1で算定した排出削減量(ER)に対する比率(%)を記載すること。

※3 方法論で規定された方法から選択すること。

※4 行を追加して記入した場合には、合計の参照範囲を確認すること。

### A.3.3 プロジェクト実施後排出量

注) 方法論の「3. 事業実施後排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

(考え方) ※1 プロジェクト実施後の発電機における発電量からCO2排出量を算定する。

$$EM_{PJ} = EM_{PJ,M} \quad (\text{式})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0
$EM_{PJ,M}$	プロジェクト実施後の主要排出量	tCO2/年	0.0

※1 方法論に記載された算定方法のうち、使用する算定方法を明記すること。

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(2)において、影響度が1%以上であった付随的な排出活動に全てについて記載する。

$$EM_{PJ,S} = EM_{PJ,S,transport} + EM_{PJ,S,rise} + EM_{PJ,S,loss} \quad (\text{式})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{PJ,S}$	プロジェクト実施後の付随的な排出量	tCO2/年	0.0
$EM_{PJ,S,transport}$	熱搬送設備の使用によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.0
$EM_{PJ,S,rise}$	廃熱の昇温又は昇圧によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.0
$EM_{PJ,S,loss}$	廃熱回収発電設備の設置により影響を受ける設備の使用によるプロジェクト実施後排出量	tCO2/年	0.0

### A.3.4 ベースライン排出量の考え方

注) 方法論の「4. ベースライン排出量の考え方」を参照し、本プロジェクトにおけるベースライン排出量の考え方及びベースライン活動量の算定式を選択して引用記載すること。また、ベースライン活動量については、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) ベースライン排出量の考え方

本プロジェクトにおけるベースライン排出量は、プロジェクト実施後の廃熱回収発電設備による発電電力量を、ベースラインの系統電力等から得る場合に想定される二酸化炭素排出量である。

#### (2) ベースライン活動量（発電電力量、蒸気の供給量又は製品の生産量等）の算定式

注) 方法論に算定式の記載がないものについては、本項目の記載は不要とする。

$$EL_{BL} = EL_{PJ, recovery} \quad (\text{式})$$

記号	定義	単位	想定値
$EL_{BL}$	ベースラインの系統電力等の使用量	kWh/年	716,668.2
$EL_{PJ, recovery}$	プロジェクト実施後の廃熱回収発電設備による発電電力量	kWh/年	716,668.2

### A.3.5 ベースライン排出量

注) 方法論の「5. ベースライン排出量の算定」に定める評価式に沿って排出量の評価方法を記載すること。また、記載例に示すように各項目ごとの評価式を記載した上で、各パラメータの定義及び想定値を表中に記載すること。

#### (1) 主要排出活動

$$EM_{BL} = EL_{BL} * CEF_{electricity, t} \quad (\text{式})$$

記号	定義	単位	想定値
$EM_{BL}$	ベースラインの主要排出量	tCO2/年	397.0
$EL_{BL}$	ベースラインの系統電力の使用量	kWh/年	716,668.2
$CEF_{electricity, t}$	電力のCO2排出係数	tCO2/kWh	0.000554

#### (2) 付随的な排出活動

注) A.3.2(1)において、算定することとした付随的な排出活動に全てについて記載する。

(式)

記号	定義	単位	想定値

## A.4.1 モニタリング計画

### (1) 活動量（燃料消費量、生成熱量、生産量等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
EL <sub>PJ, recover</sub>	プロジェクト実施後の廃熱発電機による発電電力量	kWh/年	C	発電電力量を専用パソコンから抽出しデータ化して保管。抽出された電力量に補正率を加味して発電電力量を算出する。	月1回	716,668	(平均出力103.6 kWから測定誤差2%を採用し101.6 kW) × (2015年10月から2016年9月の投入の稼働時間7,056hour)	

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類A・B・Cのいずれかの方法を選択すること。  
 分類B（計量器）を用いる場合には、A.4.2において計量器やモニタリングポイントの説明を行うこと。  
 分類C（概算等）を用いる場合には、A.4.3において概算・推定方法の詳細について説明すること。

### (2) 係数（単位発熱量、排出係数、エネルギー消費効率、物性値等）

モニタリング項目			モニタリング方法			プロジェクト計画での想定		備考
記号	定義	単位	分類 ※1	概要	頻度	想定値	根拠	
CEF <sub>elec</sub> tricity	電力のCO <sub>2</sub> 排出係数	tCO <sub>2</sub> /kWh	III	デフォルト値を使用する。	年	0.000554	デフォルト値	全電源方式

※1 モニタリング・算定規程に沿って、分類I・II・IIIのいずれかの方法を選択すること。  
 分類I（実測）を用いる場合には、A.4.4において実測方法の説明を行うこと。  
 分類II（第三者提供値）を用いる場合には、提供事業者名を概要欄に記載すること。

## A.4.2 計量器を用いたモニタリング（分類B）に関する説明

注) A.4.1（1）においてモニタリング分類B（計量器）を使用する場合の計量器について説明すること。

### （1）計量器の概要

#### ①特定計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	検定の有効期限

#### ②特定計量器以外の計量器の場合

モニタリング項目	計量器の種類	モニタリングポイント ※1	計量器の校正方法の説明

※1 モニタリングポイントは(2)と整合する番号を記載すること。

### （2）モニタリングポイント

注) 計量器によるモニタリングポイントを図示すること。必ずしも個別項目ごとに図を作成する必要はなく、一つの図で全てのモニタリングポイントを示してもよい。複数の図を作成する場合は、記入枠を必要に応じてコピーすること。

--

### A. 4.3 概算等に基づくモニタリング方法（分類C）に関する説明

注) A. 4.1（1）においてモニタリング分類Cを使用する場合の概算・推定方法の詳細について説明すること。また、計量器による計測値に基づく推定を行う場合には、モニタリングポイントも併せて示すこと。

モニタリング項目	①プロジェクト実施後の廃熱発電機による発電電力量
<p>(推定・概算方法)</p> <p>①プロジェクト実施後の廃熱発電機による発電電力量</p> <p>電力量計（三菱電機製指示計器）により把握</p> <p>推定誤差2.0%を考慮</p> <p>電力量＝計測値 ×100/（100+2.0）</p> <p>(モニタリングポイント)</p> <p>発電機制御盤に設置された計測機から、自動でデータがPCのエクセルで毎日保存</p>	

### A. 4.4 係数(単位発熱量、排出係数、効率等)の実測方法に関する説明

注) A. 4.1において分類Iに該当する方法でモニタリングを実施することとした項目について、実測方法の説明を行うこと。なお、実測の中で活動量の計測が必要となる場合(例えば効率の計測)には、活動量の計測区分（分類A～分類C）に準じた説明を行うこと。

モニタリング項目	